

たかが臭いが分からないくらいならいい、たいしたことはないと思うだろう。が、とてもでもない。臭いを感じる嗅神経の障害は、脳の病気を簡単に早く見付けける指標になるのだ。

70歳のF子さん。「この頃、鼻が利かなくなったりと訴える。臭いがしつこいしやは分かるが、何の臭いかよく分からなくなりました。」なり、頭のせいでは、「と迫ってくる。

まさか、「嗅覚障害はパーキンソン病や認知症の前駆症状」と知っての受診ではあるまい。ちなみに、パーキンソン病などの原因となるのは、 α -シヌクレインである。このタンパクは、早へから嗅神経や嗅球に沈着する。で、その動きがダメになると、臭いが分かりにくくなる。だから、パーキンソン病では、手足のふるえや歩行障害などの運動障害が出てくる前に、嗅覚障害がみられるのである。また、レビー小体型認知症でも、幻視や認知機能が低下する前に嗅覚障害が現れるというのだ。

というので、アルツハイマー病でも同じことが言えるようだ。最近の論文だが、嗅覚の急速な低下がみられることは、軽度認知障害やアルツハイマー病を発症するリスクが高いという。発症したひとでは、嗅覚や記憶に關係する脳の部分が変化している。嗅覚障害の有無は、早期のアルツハイマー病を見付け出すのに役立つそうなのである。

で、F子さんだが、もの忘れのテストは年齢相応で、幻視や運動障害もない。頭のMRI(磁気共鳴画像)の検査でも問題はなし。と、気が軽くなったのか、F子さんと。じゃあ、私の鼻は「コロナでも」と半分おびけている。確かに、今の時点では、嗅覚障害の原因として「加齢」は否定できない。だが、先はどうなるか？しつこい病気の経過を診ていかなければなるまい。

(石黒修三=いし黒くろニック・脳神経